

「6月の休日」

今年も梅雨に入りましたが、例年になく雨の量は少ないようです。その代わり、暑さが厳しく感じられ、6月でこの暑さだと今年の真夏が思いやられます。

この時季、休みの日はもっぱら除草作業です。家の庭に始まり、裏山、畑や田んぼ、お墓の周りなど雑草は場所を選びません。家にいると、朝6時前から草刈り機の音がいくつも聞こえてきます。朝が弱い私の始動は日が高くなってからです。涼しいうちにやった方がいいとは分かってはいるものの、体が動きません。

我が家もそうですが、周辺では米作りや畑を止めてしまった土地がたくさんあります。除草作業だけを行うという何とも生産性の無いことを続けなければなりません。

子どもの頃は家の周りにたくさん田んぼが広がっていて、春に植えた苗がだんだんと成長し、伸びた苗が田んぼ全体を覆い、緑の絨毯みたいになり、それが風に吹かれて波打つ光景が目に見え付いています。子どもながらに心地良さを感じていました。やがて稲穂が実り、色づき、収穫の秋を迎え、稲刈りや稲架干しの手伝いをしたことを

思い出します。

親としては、自らの体験や感動を子どもにも同じように経験させてやりたいと思いますが、今は家業としての米作りを体験させることはできません。こう思うのは親の勝手かもしれませんが、子どもはその時代に合った成長をしていくでしょう。

今の子どもたちが田園風景を見た時どんな思いを持つのか、私たちと同じ気持ちになるのか、そんなこんなを除草作業の休憩中に思いを巡らせている、暑い6月の休日でした。

町長コラム

Mayor Column Vol.15

筆おもむくままに

穴水町長 吉村 光輝

